

小杉俊哉

TOSHIBA KOSUGI

企業で働くにも「起業家」マインドは必須の時代！

起業家のよう に 企業で働く

企業で働く人にとって「起業家」とは、自分には縁のない遠い存在だろう。

何か特別な能力を持ち、成功する保障もない事業にリスクをとって臨むエネルギーに恵まれ、なるべくしてなる別世界の人、なのだと思う。

私は、4つの企業に勤めたあと、独立して自営業を営んでいる。同時に、3つの会社を設立し、また、縁あって20代、30代のベンチャー経営者たちを支援して来た。彼らといっしょにやっている、私にはそこまでできないなあ！と舌を巻くことも多い。自分がないなかった分も彼らを応援したいと思っている。

また、組織人事コンサルタントとして多くの学生・社会人のキャリア開発を支援し、数多くの企業人に研修や面接を通じて接してきた中で、企業で働く者の苦悩も閉塞感も理解しているつもりだ。

企業に勤める人たちとベンチャー経営者。彼らと間近で接して来てつくづく思うこと。それは「**起業家**」マインドが必要なのは、ベンチャー経営者だけではない。企業で働くにしても「**起業家**」のように考え、働くことが必要だ、ということだ。

企業において、どんどん出世して行く人、あるいは、やらされ感なく楽しそうに仕事をしている人は、例外なく「起業家」マインドを持って自律的に働いている。

「起業家」マインド、すなわちアントレプレナーシップが、企業人にも必要だということ。はさんざん言われて来た。しかし、「で、具体的にはどうすればいいの？」ということに対する答えは提示されて来なかったように感じる。

これまでに私が組織人事コンサルタントや大学教員としての経験の中で出会ってきた「起業家」マインドを具体的な行動に落とし込んで仕事を進める「企業人」が一体どうやっているのか、若いビジネスパーソンに伝えたいことを中心に構成したが、本書だ。20代後半〜30代前半、私のゼミの卒業生に対して手紙を送るといふ形で筆を進めた。

また、起業家やアントレプレナーといわれる人たちの残した名言からは、学びが多い。それらはそのまま読者へのメッセージとして、各手紙の最後に付した。

一人でも多くの人が「起業家のように企業で働き」活躍されること、ひいては企業が活力を取り戻すことを願ってやまない。

CHAPTER 0 君はただ「会社」から言われたとおりに働き続けるのか？ 6

CHAPTER 1 志をもつ

- 01 出世しなくてもいい 18
 - 02 言われたことをやるだけで終わらない 25
 - 03 上司のポジションのイメージを持って働く 32
 - 04 自分がどうなりたいかよりも大切なこと 38
- 組織を使って世の中で何を成し遂げたいのか、貢献したいのかを考える

CHAPTER 2

起業家のように仕事をするうえでやるべきこと

- 05 ビジョンを持つ 44
 - 06 ビジネスプランとは何か 54
 - 07 プロフェッショナルとして仕事をする覚悟を持つ 60
 - 08 自身がどれだけの価値を生むか 68
- 企業家のビジョンと個人のそれとの接点を作る
 ビジョンの重なりを持つと自律的に動くようになる
 素晴らしいアイデアや技術があれば上手くいく時代は終わった
 柔軟性と文殊の知恵を利用する
 成果に拘る、人に依存しない、環境のせいにならない
 「投資家」からの評価を常に意識する

CHAPTER 3

大きな仕事は企業でこそできる

- 09 リーダーシップを発揮する 76
 - 10 腹を括る 83
 - 11 会社でやる意味を常に意識する 92
 - 12 会社のリソースを使い倒す 97
 - 13 社内外のネットワークを作る 104
 - 14 チームを最大限活用する 112
- 「いつか」も辞められる「と」思っているならば環境に左右されない
 Whatを考え、周囲を巻きこんで実行する
 一人でやった方が経済的価値を生むことを会社でやる必要はない
 会社のビジョンと個人のビジョンを重ね合わせるとうまくいく
 社内外のリソースを上手に活用
 他者を支援し、音くろ「て」が自分の成長に繋がる

CHAPTER 4

転職をつくる

- 15 社内で「起業」「転職」できるのが企業にいる最大のメリット 120
 - 16 新規事業に手を上げる 124
 - 17 難易度の高い仕事を引き受けるリスクを取る 129
 - 18 傍流の仕事が君を成長させる 133
 - 19 出向は成長のチャンス 139
 - 20 あえて畑違いの部門を希望する 143
- 日本企業では社内転職がいくらでもできる
 社内での起業できるチャンスは逃す手はない
 優秀な人材がいなければ成長できない
 ダイバーシティ環境をどれだけ経験できるかがカギ
 常に自分の強み、差別化を意識する

21 海外業務研修や留学のチャンスは積極的に利用する
会社のお金を使って勉強させてもらえるほどありがたいことはない

150

CHAPTER 5

企業内で

勝っていくための

スキル

- 22 「最速」か「最高」でないと勝てない
仕事は完成度と時間のかけ算
156
- 23 常に市場価値を意識する
他社、別業界の人をライバルにする
160
- 24 上司と喧嘩しない
うまく付き合う方法はある
168
- 25 アサーション
意見をもち主張する仕方を練習する
175
- 26 表現力
言えば良いというものではない
182
- 27 影響力
どうやって及ぼすかの仕組みを知る
190
- 28 存在
一目、二目置かれるために必要なこと
198
- 29 社内政治
意識しつつ、それに巻き込まれない
206
- 30 チャレンジ
挑戦をし続けることでしか成長はない
210
- 31 学習
素直さ、柔軟性があればいつからでも、いつまでも伸びる
214

おわりに そうやって来た君はどこでも活躍できる

220